

31 △ 地 域 宮城 13 版 2009年(平成21年)10月17日(土曜日)

専門医配置など要望

大崎市民病院の建て替え問題で、「大崎重症心身障害児(者)を守る会」(大友祥子会長)は16日、重症心身障害児らが新病院でリハビリなどを受診できるよう専門医師の配置などを伊藤康志市長に要望した。

要望はほかに、医療ケアのある短期入所施設の設置、小児科病棟への保育士の配置など計5項目。伊藤市長は「必要性は認識している」と回答し、前向きに取り組む姿勢を示した。

23 宮 城 宮城 2009年(平成21年)10月17日(土)



「守る会」5項目
大崎市長に要望

市民病院建て替え
大崎市古川の「大崎重症心身障害児(者)を守る会」(大友祥子会長)は16日、大崎市民病院本院の建て替えに際し、県北部の重症の障害児らが地元で十分な医療ケアを受けられるよう、必要な診療設備の整備と専門医の配置など5項目の要望書を伊藤康志市長に出した。

伊藤市長は、県北の中核病院として重症の障害児らに対応する診療機能の整備は不可欠として、病院建物の基本設計に要望を可能な限り取り入れると回答した。

守る会によると、県北部の重症の障害児者は数百人と見込まれる。だが診療したり、車いすや装具を製作修理する医療施設は仙台圏にしかなく、県北部の障害児らは通院だけで疲れ果てる状況が続いている。また、緊急事態に備えた医療ケア付き短期入所施設も仙台圏にしかないという。

こうした地域偏在を改善してほしいと、守る会は以前から活動。新病院建設が同市古川

稲葉の市有地に決定したことから、この日改めて要望した。
【小原博人】

河 北 新 報 平成21年(2009年)10月17日(土曜日)

障害児医療ケア 新病院で対応を

大崎の「守る会」市長に要望書

医療ケアが必要な障害児の家族らでつくる「大崎重症心身障害児(者)を守る会」は16日、大崎市民病院本院(同市古川)の建て替えに合わせ、小児神経科などの診療科や短期入所施設を設けるよう求める要望書を市に提出した。

みやぎ (第三種郵便物認可) (15) 15版

要望書では①小児神経科やリハビリテーション科の専門医と車いすなどの整備スタッフの配置②短期入所施設の設置③小児病棟への保育士の配置④車いすに対応したトイレの外来への設置などを求めている。

大友祥子会長らが市役所を訪れ、県内では専門医も施設も仙台に集中し、通院の負担が大きいことや、短期入所施設のことや、空きがない現状を訴えた。

要望書を受け取った伊藤康志市長は「入所施設やトイレなどの整備は何とか実現できると思う」とした上で「問題はスタッフの確保。常勤医に来てもらうのが望ましいが、難しければ、県のドクターバンクや医師がいる病院からの派遣を要請したい」と答えた。